

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 23 年 6 月 23 日 (2011.6.23)

【公表番号】特表 2004-500339 (P2004-500339A)

【公表日】平成 16 年 1 月 8 日 (2004.1.8)

【年通号数】公開・登録公報 2004-001

【出願番号】特願 2001-528127 (P2001-528127)

【国際特許分類】

C 0 7 C 17/278 (2006.01)

C 0 7 C 17/20 (2006.01)

C 0 7 C 19/01 (2006.01)

C 0 7 C 19/08 (2006.01)

C 0 7 B 61/00 (2006.01)

【F I】

C 0 7 C 17/278

C 0 7 C 17/20

C 0 7 C 19/01

C 0 7 C 19/08

C 0 7 B 61/00 3 0 0

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 23 年 4 月 21 日 (2011.4.21)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】特許請求の範囲

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 少なくとも 3 個の炭素原子を含むハロ炭化水素の製造方法であって、
実質的に無水の反応媒体中で触媒の存在下でハロアルカンとオレフィンとを反応させる
ことを特徴とする方法。

【請求項 2】 反応媒体が 1 0 0 0 m g / k g 以下の水を含む、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】 反応媒体が 7 0 0 m g / k g 以下の水を含む、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 4】 反応媒体が 4 0 0 m g / k g 以下の水を含む、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 5】 ハロアルカンとオレフィンとが共触媒の存在下でも反応する、請求項 1 ~
4 の何れか一項に記載の方法。

【請求項 6】 触媒が銅化合物である、請求項 1 ~ 5 の何れか一項に記載の方法。

【請求項 7】 共触媒がアミンである、請求項 5 又は 6 に記載の方法。

【請求項 8】 オレフィンがハロオレフィンである、請求項 1 ~ 7 の何れか一項に記載の
方法。

【請求項 9】 ハロオレフィンが、一般式 $R_1 C_1 C = C R_2 R_3$ (ここで、 R_1 、 R_2
及び R_3 は、独立に、H、 C_1 、直鎖、環状又は分岐の任意に置換されたアルキル又はアル
ケニル、任意に置換されたアリール又はヘテロアリールを表す) に相当するクロロオレ
フィンである、請求項 8 に記載の方法。

【請求項 10】 調製されるハロ炭化水素が、1, 1, 1, 3, 3 - ペンタクロロプロパ
ン、1, 1, 2, 3, 3 - ペンタクロロプロパン、1, 1, 1, 3, 3 - ペンタクロロプロ
タン、1, 1, 1, 3 - テトラクロロプロパン、1, 1, 3, 3 - テトラクロロブタン、
1, 1, 1, 3, 3, 3 - ヘキサクロロプロパン及び 1, 1 - ジクロロ - 2 - トリクロロ
メチルプロパンから選ばれる、請求項 1 ~ 9 の何れか一項に記載の方法。

【請求項 1 1】(a) 触媒の存在下において前記オレフィン及びハロアルカンを反応させる工程から得られる反応混合物の少なくとも画分を、水分を減少させる処理に掛ける工程、次いで

(b) 処理された画分の少なくともいくらかを、前記オレフィン及びハロアルカンを反応させる工程に循環させる工程、

を特徴とする請求項 1 ~ 1 0 の何れかに記載の方法。

【請求項 1 2】 フルオロ炭化水素を得る方法であって、

(a) 請求項 1 ~ 1 1 の何れか一項に記載の方法によるハロ炭化水素の合成、及び

(b) 工程 (a) で得られたハロ炭化水素の弗化水素による処理、を含む事を特徴とする方法。